

## 【英語】 <中学校 第2学年>

### 1 結果のポイント

- 「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。
- 問いかけから相手の尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。
- 「読むこと」について、大まかな内容や大切な部分を読み取る力をみる問題では、正答率が70%を上回っている。
- まとまりのある英文や会話文を読み、具体的な内容を読み取る力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。
- 「書くこと」について、英文の構造を理解して、正しい語順で書く力をみる問題では、正答率が70%を上回っているものがある。
- 伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力や、一つの話題について、読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがある。

### 2 結果の分析

#### (1) 問いかけに対して適切に応答する力をみる問題の例

<問題> ①の3 (テープ問題)

次のように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回くり返して言います。

(放送文) 3 Welcome to our town. Where do you want to go?

ア Thank you. イ To a junior high school. ウ Yes, I do. エ For three days.

<結果> 正答率 54.2% (正答…イ)

<分析>

①は、英語で問いかけられている内容を正しく聞き取り、それに対して適切に応答する力をみる問題である。①の3は、正答率が60%を下回っており、応答する力が十分に身に付いているとはいえない。誤答の中では、For three days. を選択したものが多く、疑問詞の意味を正確にとらえることができなかつたと考えられる。つまり、wh-疑問文を用いて「場所」について尋ねている英文を「時」について尋ねているととらえたと予想される。また、①の2は、Do you have a pencil? の問いかけに対し、Here you are. という応答を選択する問題であり、正答率は50%を下回っている。誤答の中では、No, I didn't. を選択したものが多く、Do you ...? の問いかけに対して、昨年度までと同様に話し手の意向を理解することよりも言語形式による応答を優先し、yes-no を含んだ応答文を選択したのものと考えられる。したがって、言語形式によらないで適切に応答できる力を付けるように指導する必要がある。

#### (2) 話の要点を読み取る力をみる問題の例

<問題> ⑤の1

次はトム(Tom)からタロウ(Taro)に届いた手紙です。よく読んで、後の1～3の問いの答えとして最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

1 上の手紙の下線部①に "Thank you." と書いてありますが、その理由として適切なものはどれですか。

- ア 送ってくれた本が、とても役に立ったから。
- イ タロウの学校の図書館に、自分の国の本がたくさんあったから。
- ウ 自分が日本にいたときに撮った写真を送ってくれたから。
- エ 次の手紙と一緒に、日本の写真を送ってくれるから。

<結果> 正答率 73.7% (正答…ア)

<分析>

⑤は、ある程度まとまりのある英文を読み、大まかな内容や大切な部分を読み取る力をみる問題である。⑤の正答率は、1～3のどの問題も70%を超えており、力がおおむね身に付いていると考えられる。1では、一つ目の段落の要点が「日本についての本を送ってくれたことに対するお礼を述べている」ことを読み取り、下線部① Thank you.の直前の文の意味が「その本によってレポートが作成できたこと」であることから、Thank you.と書いている理由がアであると理解できたと考えられる。また、2、3においても、手がかりとなる語句や文、前後の文をもとに内容を的確につかむことができたと思われることから、まとまりのある英文を読み、大まかな内容や大切な部分を読み取る力が身に付いているといえる。

### (3) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> ⑧

英語の授業で、「私の好きなもの」という題で英文を書くことになりました。自分が紹介する人やもの一つ決めて、まとまりのある3文以上の英文で書きなさい。  
必要があれば、紹介する内容をメモし、整理してから書きなさい。

<結果> 正答率 50.6% (正答…略)

<分析>

⑧は、身近な話題について、書くべき内容を自分で考え、読み手に正しく伝わるようまとまりのある英文を書く力をみる問題である。「自分の好きなもの」について、80%程度の生徒は2～3文の英文で表現することができていたことから、多くの生徒が書こうとする意欲や書く内容はもつことができたと考えられる。しかし、正答率は約50%であり、誤答を分析すると、文と文のつながりがなかったり、3文で何を伝えたいのかがはっきりしない英文がみられた。このことから、書こうとする意欲や書く内容はもっているが、伝えたい内容が読み手に伝わるように文を構成したり、正確に書いたりする力は十分身に付いていないと考えられる。

また、⑩の1、3のように語や語句が与えられている場合では、正答率が70%を超えていることから、[主語+動詞]、[主語+動詞+目的語]といった文型を使って正しい語順で書く力は身に付いていると思われる。しかし、⑧の誤答には、文法的な誤りや綴りの誤りが多すぎて書いた内容が伝わらない英文もあり、基本的な文法や語彙についての知識・理解が十分ではないと考える。書こうとする内容を整理し、読み手に伝わるように正しく書く力を身に付けることが課題である。

### (4) 内容が伝わるように正しく書く問題の例

<問題> ⑨の3

あなたは、エミリー (Emily) を買い物に誘おうと電話をしましたが、留守でした。留守番電話に残すメッセージを3文の英文で書きなさい。  
【メッセージで伝えたいこと】  
3 相手の返事を聞きたい。

<結果> 正答率 33.4% (正答…略)

<分析>

⑨は、示された内容が正しく伝わるように書く力をみる問題である。⑨の正答率の平均は、約33%である。また、約30%が無解答であることから、どのような英文を書いてよいのかイメージをもつことができなかった生徒が少なくないと思われる。また、⑨の3の誤答では、I want や I hope という書き出しで書き始めたが、うまく内容を伝える文を完成させることができなかつたものもみられた。正答の中には、「相手の返事を聞きたい」という内容が伝わるように、Please call me. / How about you?と柔軟に発想して書いているものもあった。このように、内容を伝えるには、様々な表現があるという認識をもち、いろいろな英文で書くことができるように指導する必要がある。

1や2も、3と同様の傾向がみられるので、今後は、状況に応じて伝える内容を自分で考えて

正しく書く力を身に付ける必要がある。

### 3 分析を踏まえた指導の改善

#### (1) 指導計画の工夫改善

- ・日常の生徒の学習状況や学習状況調査の結果を分析し、自校の課題を明らかにして指導計画の改善を図りたい。課題と考えられる指導事項については、指導計画の中で重点化を図るようにしたり、活動内容を見直したりすることが必要である。
- ・「聞くこと」については、指導事項「ウ 質問や依頼などを聞いて適切に応じること」を扱う単元を系統的・発展的に位置付け、話されている文が、尋ねているのか、それとも依頼しているのかを状況に応じて判断し、応答することができる力を高めたい。
- ・「読むこと」については、物語、説明文、手紙文など、ある程度まとまりのある英文を読んで、大まかな内容や大切な部分を読み取るなど、目的に応じて読み取る言語活動を指導計画に位置付ける必要がある。
- ・「書くこと」については、自分の考えや意見をまとめて書く活動や、伝えたい内容を正しく伝える活動を繰り返して行う指導計画になっているかという視点から見直す必要がある。

#### (2) 指導方法の工夫改善

- ・「聞くこと」については、質問や依頼などを聞いて、単なる言語形式による応答だけでなく、話し手の意図を正しく理解し、適切に応じることができる力を付けることが大切である。そのため、それぞれの文のもつ様々な意味を理解するとともに、実際に動作で応答する活動を設定するなど、繰り返し使用して慣れるような言語活動を工夫する。また、質問や依頼をする文だけでなく、その前後の文を的確に聞き取るようにする。さらに wh-疑問文を含んだ疑問文の基本的な特徴をその応答の仕方の違いなども含めて理解できるようにする必要がある。
- ・「読むこと」については、ある程度まとまりのある英文を読んで、大まかな内容や大切な部分を的確に読み取ることができる力を付けることが大切である。そのため、読む題材が何であるかによって、読み取り方を工夫する必要がある。物語であれば、「主な登場人物」「主人公」「話の展開」等を5W1Hを手がかりに読むようにする。また、説明文では、書き手が何を伝えようとしているのか、大切な部分をとらえて読み取ることができるようにする。あるいは、ポスターやチラシ等からは必要な情報を的確に読み取ることが大切である。そして、「何のために読むのか」という、目的を明確にし、読むことによって「○○がわかった」「○○と思った」と実感できるような活動を工夫する。
- ・「書くこと」については、まとまりのある英文を書く力を付けることが大切である。そのため、時系列で書く、話題を絞って書く、情報を伝えるように書くなどの様々な言語活動を通して、目的によって書き方を選択し、書く内容をまとめる力を高める必要がある。また、単なる和文英訳ではなく、自分が伝えたいことをどのような文で伝えるのかを考える学習過程を大切にする。例えば、「いっしょに買い物に行きませんか」と誘う場合、Let's go shopping. Shall we go shopping? Would you like to go shopping with me? How about going shopping? 等、状況に応じて表現はいろいろあるという認識を生徒がもつことができるようにする。そのためには、具体例を挙げて多様な表現を価値付け、広めていく指導が重要である。また、伝えたい内容や伝え方の構想をもつことができても、正確に書くことができなければ、読み手には伝わらないという側面もある。そこで、「おおむね満足できる」状況を活動に応じて具体的に設定し（例えば、綴りや格変化、冠詞など、どこまでの誤りを許容範囲とするか）、若干の誤りはあっても、内容が読み手に正しく伝わるように書くことができる力を身に付けさせるようにする。

#### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・「聞くこと」については、場面や相手の意向を汲み、適切に応答できる力を伸ばすために、教師が身近な話題で積極的に生徒に話しかけ、その中で言語形式によるものや言語形式によらない応答、wh-疑問文を意図的に使うような場をもつようにする。
- ・「読むこと」については、まとまりのある英文を読む力を伸ばすために、生徒が英字新聞や英語の書籍を自由に閲覧できるコーナーを設置したり、教師がそれらについて話題にしたりして英語への興味・関心を高めるようにする。
- ・「書くこと」については、基本的な文法事項や語彙の定着を図るために、授業中に話したことを書いてまとめる活動を多く取り入れる。また、生徒が書いた文を継続的に指導し、そこで見られた誤りを家庭学習で練習するように指導する等、一人一人の学習状況に応じた指導・援助をしていく必要がある。